

ホンダがマーシャル諸島でEV実験スタート



米国仕様の「フィット EV」3台を政府公用車として提供、太陽光発電に対応したAC普通充電器「Honda Power Charger」を備えた充電ステーション4カ所を新設

2015年10月19日、マーシャル諸島共和国の首都マジュロにある政府庁舎前で、ホンダとマーシャル諸島共和国が合同で実施するEV実証実験「ソーラーEVプロジェクト」のオープニングセレモニーが開催されました。池史彦代表取締役会長からゴールドデンキーを受け取ったクリストファー・ロヤック大統領は満面の笑みを浮かべ、二人は固く握手。この試みは、島嶼国マーシャルのエネルギー自立化やCO₂排出ゼロ化という未来を担うプロジェクトとして期待されています。

ソーラーEVによるエネルギーの自立化とCO₂排出ゼロ化 島嶼国マーシャル諸島の未来を掛けた新たな挑戦

「ソーラーEVプロジェクトは、マーシャル諸島の未来を掛けた重要なプロジェクトです」2015年10月19日に行われたオープニングセレモニーで挨拶に立った、クリストファー・ロヤック大統領（当時）の言葉だ。

「ソーラーEVプロジェクト」とは、マーシャル諸島とホンダが合同で開始する実証実験のこと。ホンダが電気自動車「フィットEV」3台を政府公用車として提供、これに、太陽光発電に対応したAC普通充電器「Honda Power Charger」を備えた充電ステーションを4カ所に設置する。そしてこれらを2年間使用して、そのデータをリアルタイムでホンダに提供する。

マーシャル諸島は、2020年までにエネルギーの20%を再生可能エネルギーに転換するという目標を掲げ、世界に発信した。100%ソーラー発電で走る自動車が導入されれば、この目標達成に大きく前進する。

また、このプロジェクトには、もう一つ、重要な意味が込められている。2013年の太平洋諸島フォーラムで採択された「気候変動問題の解決に向けて、太平洋諸国が世界のリーダーとなってまず行動を起こす」という「マジュロ宣言」がそれだ。つまりこの試みは、この宣言の実行策でもある。「ホンダは、この先進的で素晴らしい技術をいいタイミングで提供してくれました。また、このプロジェクトをサポートしてくれた日本政府にも感謝したい」とロヤック大統領は述べた。

大統領に続いて登壇した光岡英行マーシャル諸島駐在の日本国大使は「このプロジェクトは、太平洋諸国はもちろん世界でも初めての試み。地球温暖化の危機に対し、国民そして国土の安定と安全のためにホンダとの連携を決断した政府に敬意を表します」と述べた。

そして、ホンダの池史彦会長は「我々は、マジュロ宣言の達成に向けて邁進するマーシャル諸島との合同プロジェクトに大きな誇りを感じています。両者で手を携えて助け合い、地球温暖化の危機克服を目指して一層努力していきたい」と決意を述べた。





右：クリストファー・ロヤック大統領（当時）
中央：光岡英行 在マーシャル諸島日本大使
左：池史彦 ホンダ会長



同国は、5つの島と29環礁で構成される島嶼国



プロジェクトのオープニングセレモニーでのホンダスタッフ



太平洋上、グアム、サイパンの東方に位置するマーシャル諸島

プロジェクト成功のカギは人材育成 メンテナンス技術の講習修了書授与

今回のプロジェクトの成功には、単に技術や製品を提供するだけでなく、ソーラーEVシステムを自立的に維持管理できるスタッフの育成が重要。そのためホンダは、技術者による現地スタッフへの技術講習を行い、全課程の修了者に修了証書を授与した。

授与を行ったのは、トニー・デブルム外務大臣（当時）と池会長。デブルム大臣は計画段階からこのプロジェクトに加わり、実現に向けてホンダとの交渉を重ねてきた政府側の推進役の一人。それだけに感慨もひとしおといった様子で、証書を受け取るスタッフの一人ひとりと固い握手を交わっていた。



大統領も自らEVへの充電操作を体験



デブルム外務大臣と池会長による修了証書授与



トニー・デブルム外務大臣



セレモニー終了後は、ボンネットを開けてEVのメカニズムを解説

マーシャル諸島に導入されたソーラーEVシステム



太陽光発電対応充電器「Honda Power Charger」付きの充電ステーション4カ所を新たに設置。充電中に車両の走行データなどを日本に送信する通信装置も装備



①ローラ消防署



②教育省施設



③厚生省施設



④マジュロ消防署



スマートコミュニティ企画室
樋田直也 室長

オープニングセレモニーを終えて、本プロジェクトのホンダ側の責任者、スマートコミュニティ企画室の樋田直也室長は「ようやくここまで来ることができたという達成感、そしていよいよ始まるぞという期待感、その両方を今感じています。今後は、このプロジェクトを成功させると共

に『ソーラーEVシステム』を進化、拡大させて、次の未来につなげたいと思います」と語った。

東京から4500km離れた太平洋上の島、マジュロで始まった「ソーラーEVプロジェクト」。2年後にどんな成果を残すことができるのか、今から楽しみ。

マーシャル諸島はこんなところ



観光は重要な収入源。大型客船が入港すると、街が活気づく



日本からは、グアム経由で「アイランド・ホッパー」と呼ばれる飛行機に乗り換える



マジュロ空港の先にある東太平洋戦没者記念碑。1914年から約30年、日本の統治下にあった



首都マジュロの日の出。島影ひとつ見えない水平線から昇る朝日



幹線道路を西に進むにつれ、徐々に民家が減り、高いヤシの木が道の両側に茂る



マジュロの幹線道路、東の始点にあるマイルストーンには、西端まで30マイル



小休止した「フィット EV」に駆け寄る子供たち



幹線道路は環礁をぐるりと巡る1本のみ。通勤時間帯には車が渋滞